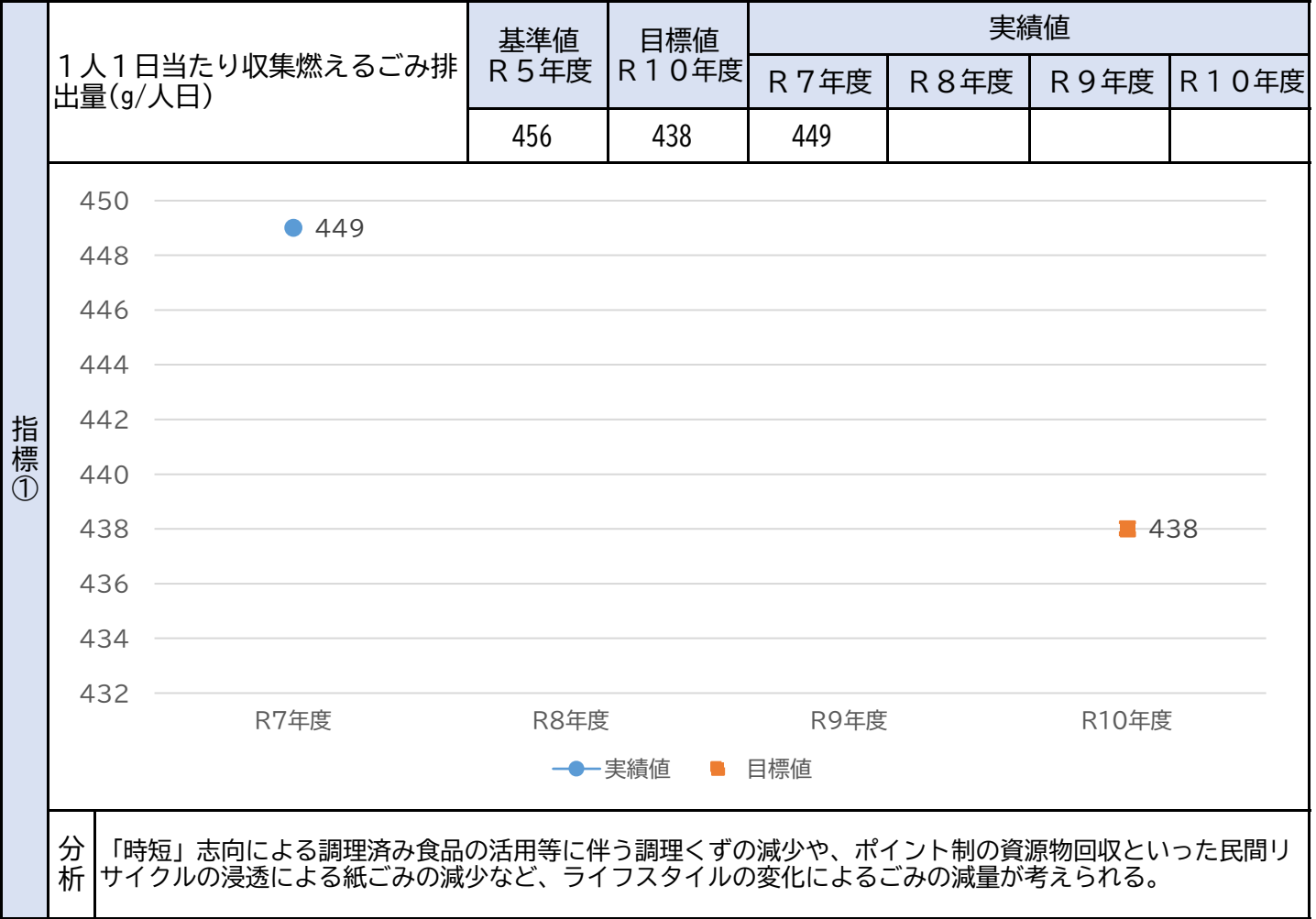


令和8年度 施策評価シート《佐賀市未来共創プラン》

政 策		06 生活・環境				豊かな自然に包まれ、人々が心地よく暮らすまち			
佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれがライフスタイルの見直しや脱炭素、自然保護など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していけるように取り組んでいきます。									
2040年に目指す市民等の姿《総合計画》									
1 市民は、主体的に徒歩や自転車、公共交通機関で移動し、市民生活や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで賄われている。 2 市民や事業者は、3Rの大切さを理解し、自ら進んで取り組んでいる。 3 市民は、豊かな自然や身近な生活環境を守るため、自らできることに取り組み、自然と生物と共存するまちで快適に暮らしている。									
重点ポイント			目指す姿や重点ポイントと現状のギャップ						
・市民一人ひとりが脱炭素に向けた行動をとっていること ・産学官連携のもと、事業者が脱炭素経営を行っていること ・再生可能エネルギーの導入と自家消費促進・蓄電池が普及していること ・プラスチックの資源循環をはじめとして持続的に資源を利用する循環経済へ移行すること ・佐賀市の多様な自然や生態系について関心を持ち、自然環境の保全や再生に取り組んでいること			・環境配慮型の選択肢の普及や利便性向上が不足しており、脱炭素型のライフスタイルが定着していない。 ・導入コストや技術的制約が障壁となり中小企業を中心に脱炭素の取組が進んでいない。 ・市内において再生可能エネルギーの普及が進んでいない。 ・使えるものや資源化できるものがごみとして捨てられている。 ・自然環境保全への意識や自然を生かした取組が十分でない。 ・外来生物の増加と多種多様化が生活環境に影響を及ぼしている。						
政策のゴール	温室効果ガス排出量削減率		基準値	目標値	実績値				
			R 5年度	R 10年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	
			33.4%	46.1%	45.9%				
	46.2%								
	46.1%								
	46.1%								
	46.0%								
	46.0%								
	45.9%								
45.9%									
45.8%									
		R7年度			R8年度			R9年度	R10年度
				—●— 実績値			■ 目標値		

施 策	06-2 「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」へ	施策統括責任課	循環型社会推進課
関係課	循環型社会推進課、GX推進課		
重点的に取り組む施策の方向性			
・ごみの量を減らし、限りある資源を有効に使う循環型社会の実現のためには、皆が3R（リデュース・リユース・リサイクル）の大切さを理解し、取り組むことが大切です。また、清掃工場や下水浄化センター等で発生するエネルギーや資源を有効活用し、資源循環の取組を推進します。 ・分別できる拠点場所や捨てない選択肢を提供し、インセンティブが得られるような施策を推進し、「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」への転換を図ります。 ・産業への二酸化炭素の活用促進等により、環境を改善しながら持続的に経済が循環する仕組みを構築します。			
《総合評価》総括と今後の主な取組			
家庭から排出されるごみの減量化は進んでいるものの、それが直接リサイクル率に反映されていない。単にごみを減らすだけではなく、「資源循環の促進」「脱炭素の選択」「市民行動の変容」「地域経済の活性化」を一体的に進めることが重要と考える。特に廃棄物発生抑制に取り組み、焼却ごみ減量による運搬・焼却時のCO2削減、食品廃棄削減、石油資源使用削減、またグリーン化推進による産業部門CO2削減、地域経済活性化に繋げるべきである。 以上を踏まえ、今後の主な取組は次のとおりとする。 ○ごみを減らす（リデュース）：「燃やすごみ」から「地域資源」へ転換 食品ロス削減、生ごみ堆肥化、3010運動などにより、焼却ごみそのものを減らす。 ○資源を循環させる（リユース・リサイクル）：循環型ライフスタイルの体験 エコプラザやプラスチック資源回収を通じて、資源を有効活用し、「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」への転換を図る。 ○市民の行動変容を促す 環境学習、デジタルサービス、インセンティブ制度等を活用し、市民一人ひとりが脱炭素行動を実践しやすい環境を整える。 ○地域経済と脱炭素の好循環を創る グリーン産業の育成や資源循環ビジネスを推進し、環境負荷の低減と地域経済の活性化を両立する。			
年度別 主な取組内容			
R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度
●エコプラザの運営 19,985千円 （来館者：46,904人） ●佐賀市食品ロス削減マッチングサービス 528千円 （登録者数 2,279人） ●プラスチック資源のリサイクル 17,474千円 （リサイクル率 91.7%） ●グリーン産業の推進 25,743千円 （清掃工場由来の二酸化炭素及び熱の供給先 6者）			

成果指標



重点的に取り組む事業 ①

楽しく3Rに取り組める環境づくり

成果

[illegible]

家庭から排出されるごみの減量化は進んでいるものの、家庭系生ごみ排出量は前年度比0.04%と若干増加しており、焼却ごみそのものをさらに減らしていく必要がある。

市民の行動変容につなげるために、堆肥化の促進だけでなく、3010運動による食品ロス削減、家庭でできるごみ減量法の発信など様々な取り組みを検討する必要がある。

今後の取組方針

主な重点取組事業

事業名	エコプラザ管理運営事業
-----	-------------

1

担当課		循環型社会推進課		事業期間		平成 15 年度 ～ 令和 年度	
事業概要・目的		佐賀市の環境学習の拠点施設であるエコプラザにおいて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、また、施設見学案内、再生品の販売などを実施する。 それにより廃棄物の発生抑制や再利用、廃棄物の適切な分別などに関する市民の意識を向上させ、豊かな自然を守るとともに、ものを大切にし、環境に配慮した生活スタイルを身につけてもらう。					
該当年度取組実績		3Rを始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、施設見学案内、再生品の販売などを行った。 ・施設見学・視察：8,038人、会議室利用：14,098人 ・環境啓発に関する講座：84回（参加者 545人） ・環境に関するイベント（エコマーケット等）：27回（参加者4,943人）					
成果	指標	総来館者数			単位	人	
	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度		
	目標値	40,000	45,000	50,000	55,000		
	実績値	46,904					
	達成状況	達成している					
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度		
	総事業費	19,985千円					
	うち市費	19,985千円					
		(※職員人件費は含まない)			(千円)		

重点的に取り組む事業 ②

食品ロス削減への取組

成果	
----	--

- ・佐賀市食品ロス削減マッチングサービス
市内登録店が「SAGAタバスケ」活用し、なかなか売れずに最後には捨てられてしまう「賞味期限や消費期限が近くなった食品類」を、値段を下げてタバスケのウェブサイトに出品し、廃棄されてしまう食品類を減らした。令和7年度ごみ減量実績43kg
- ・3010運動を推進するため佐賀市HPや職員による出前講座などで啓発を図った。
- ・フードバンクさがと連携し、家庭で余った食品を寄付する「フードドライブ」を実施した。

問題点とその要因

- ・佐賀市食品ロス削減マッチングサービス
登録店舗数27（前年度比1店舗増）、登録者数2,279人（前年度比139人増）と登録店舗数、登録者数は年々増えてきているが、ごみ減量実績は減少しており（前年度比27%減の43kg）、更なるごみ減量につなげるためには、登録店舗の確保や安定した出品数の確保が課題となっている。

今後の取組方針

- ・佐賀市食品ロス削減マッチングサービス
佐賀市HPや佐賀市労政だよりなどの広報媒体での募集や店舗訪問により新規登録店舗を開拓し、既存登録店舗には継続的な出品を呼びかけるとともに、市民に対して出前講座などを通じて登録者の確保に努め、食品ロス削減を図る。
・3010運動やフードドライブについても引き続き取り組み、食品ロス削減を図る。

主な重点取組事業

事業名		3 R推進啓発事業			
担当課		循環型社会推進課		事業期間	令和 4 年度 ~ 令和 年度
事業概要・目的		佐賀市のごみ排出量は年々減少傾向にあるが、1人1日当たりのごみの排出量は、全国平均や佐賀県平均と比較すると高い状況にある。このため、家庭から排出される燃えるごみに含まれている手つかず食品や食べ残しなどの「食品ロス」の削減に取り組み更なるごみの減量を図る。			
該当年度取組実績		食品ロスを削減するために、職員による出前講座や「SAGAタバスケ」、「3010運動」、「フードドライブ」などに取り組み、周知、啓発を行った。 ・出前講座：1回、参加者30人 ・フードドライブ：1回開催 ・SAGAタバスケ 登録店舗数：27店舗、登録者数：2,279人			
1 成果	指標	登録者数			単位 人
	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	目標値	2,200	2,300	2,400	2,500
	実績値	2,279			
	達成状況	達成している			
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	総事業費	528千円			
	うち市費	528千円			
	(※職員人件費は含まない) (千円)				

年度	目標値	実績値
R7年度	2,200	2,279
R8年度	2,300	
R9年度	2,400	
R10年度	2,500	2,500

SAGA Tabasque

STEP 1 スマホやパソコンから登録
STEP 2 家庭の余り食品を在庫や余り食品をロスにならないよう食品を出品
STEP 3 余り食品を在庫や余り食品をロスにならないよう食品を出品
STEP 2 余り食品を在庫や余り食品をロスにならないよう食品を出品

重点的に取り組む事業 ③

プラスチックの資源循環利用

成果

・プラスチック資源分別リサイクル事業

令和7年8月1日から拠点回収によるプラスチック資源の分別・再資源化のモデル実証を市内全域（校区公民館や支所、エコプラザなど33カ所）で実施した。

回収ボックス：60個設置、回収量：29,830kg、リサイクル率（プラスチック）：91.7%

問題点とその要因

・プラスチック資源分別リサイクル事業

プラスチック資源の回収量は29,830kgと想定約1.2倍であり、高いリサイクル率につながっているが、一部回収ボックスに収まらない箇所があるなど、市民の資源循環のニーズに十分に対応できていない。

分別意識の高揚を踏まえて、市民の需要に対応した回収体制の整備が必要となる。

今後の取組方針

・プラスチック資源分別リサイクル事業

更なるプラスチック資源の回収やリサイクルを推進するため、回収頻度の見直しや回収ボックスの追加設置、回収スポットの増設について検討する。また、一部、リサイクルできずに返却されるもの（プラスチック以外のものや臭い、汚れたもの）があることから回収対象物の見直しについても検討し、市民へ周知・啓発を図る。

回収頻度：利用が多い地域は回収増を検討

回収ボックス：10個程度増設を検討

回収スポット：市の公共施設を中心に増設を検討

主な重点取組事業

1

事業名		プラスチック資源分別リサイクル事業																								
担当課		循環型社会推進課			事業期間		令和 7 年度 ～ 令和 年度																			
事業概要・目的		令和4年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法の趣旨に基づき、使用済みプラスチック資源の分別回収・リサイクルを推進し、資源循環型社会の実現に向けて取り組みを促進する。																								
該当年度取組実績		令和7年8月から校区公民館や支所、エコプラザなどの33カ所にプラスチック資源の回収スポットを設け、全市域でプラスチック資源を分別回収し、再資源化を図った。 ・回収量：29,830kg ・リサイクル率（プラスチック）：91.7%																								
成果	指標	リサイクル率（プラスチック）				単位	%				<table><caption>プラスチック資源のリサイクル率（実績値と目標値）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (%)</th><th>目標値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>R7年度</td><td>91.7</td><td>90.0</td></tr><tr><td>R8年度</td><td>91.0</td><td>91.0</td></tr><tr><td>R9年度</td><td>92.0</td><td>92.0</td></tr><tr><td>R10年度</td><td>93.0</td><td>93.0</td></tr></tbody></table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	R7年度	91.7	90.0	R8年度	91.0	91.0	R9年度	92.0	92.0	R10年度	93.0	93.0
	年度	実績値 (%)	目標値 (%)																							
	R7年度	91.7	90.0																							
	R8年度	91.0	91.0																							
	R9年度	92.0	92.0																							
R10年度	93.0	93.0																								
年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度																						
目標値	90.0	91.0	92.0	93.0																						
実績値	91.7																									
達成状況	達成している																									
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度																					
	総事業費	17,474千円																								
	うち市費	17,474千円																								
(※職員人件費は含まない) (千円)																										

重点的に取り組む事業 ④

グリーン産業の創出

成果

【グリーン産業推進事業】

バイオサーキュラーエコノミー協議会会員企業と連携し、産業展示会や各種イベント等において積極的な事業PRを実施した。その結果、視察や講演の受入件数が増加するとともに、本市の取組に対する認知度や共感の拡大につながり、企業進出や新たな連携事業に関する相談へと発展した。

【バイオマス産業都市推進事業】

九州農政局が実施する「バイオマス産業都市さか」のフォローアップ調査を通じて、事業の進捗管理を行った。その結果、主要施策は概ね計画どおりに進捗しており、各種取組の成果が着実に現れていることを確認した。

	問題点とその要因
--	----------

【グリーン産業推進事業】

視察や講演依頼は前年比で20件以上増加するなど、本市の取組に関心を示す企業・団体は着実に増加している。一方で、実際の企業進出に至る案件は年間1件あるかないかという状況であり、事業化には依然として高いハードルがある。この要因としては、設備投資などの初期投資負担や事業化に伴うリスクが、企業の投資判断を慎重にさせていることが考えられる。今後は、実証から社会実装への移行を見据え、事業化リスクの低減や事業性の向上に資する支援・連携を強化し、企業進出につなげていく必要がある。

今後の取組方針

【グリーン産業推進事業】

二酸化炭素に加えてごみ焼却熱供給の検討を進め、資源を安価かつ安定的に供給できる操業環境を整備することで、それらと呼ば水とした更なる企業誘致を推進する。

【バイオマス産業都市推進事業】

構想策定から10年が経過し、一定程度の目標を達成している。二酸化炭素分離回収事業については、グリーン産業推進事業において引き続き進めていくこととする。

主な重点取組事業

事業名

グリーン産業推進事業

担当課

GX推進課

事業期間

令和 6 年度 ~ 令和 12 年度

事業概要・目的

清掃工場由来の二酸化炭素や熱などの資源を有効活用し、企業や研究機関等との連携により新たな産業の創出・集積を推進する。経済成長と脱炭素の両立を図ることで、持続可能な地域づくりと地域経済の活性化を目指す。

該当年度取組実績

・ 清掃工場周辺に新たに進出した企業 1 者

・ 企業等視察・講演への対応 121件

・ 事業PRイベントへの参加（産業展示会、県コスメイバント、プロスポーツイベント）3件

1

成果

指標

清掃工場由来の二酸化炭素及び熱の供給先

単位

者

年度

R 7年度

R 8年度

R 9年度

R 10年度

目標値

6

6

7

7

実績値

6

達成状況

達成している

決算額

年度

R 7年度

R 8年度

R 9年度

R 10年度

総事業費

25,743千円

うち市費

13,113千円

(※職員人件費は含まない)

(千円)

8

7

7

6

6

6

6

7

7

R7年度

R8年度

R9年度

R10年度

● 実績値

--- 目標値

● 脱炭素産業に取り組み企業誘致

● 誘致企業への支援

⇒ 清掃工場周辺を脱炭素産業の拠点へ

「3つの施策」を展開

● CCU技術に関する研究開発の支援

● CO2利活用や環境改善の技術開発に関する企業マッチング支援

⇒ 本書における産業のグリーン化を推進

佐賀市清掃工場

CCU・サステイナブルCO2の活用

グリーン・アグリ・パーク計画

GX事業環境の創出

産業脱炭素化の推進

±0 CO2

● 研究開発を通じたCCUに係る制度構築の取組への要請

● GX関連の施設事業を担った本市GX事業の展開

⇒ 産業グリーン化のための事業環境整備